

◆奥山久米寺の調査—第99-3次

はじめに

本調査は、住宅建設に伴う事前調査として、明日香村大字奥山で実施した。調査区は、奥山久米寺塔跡の約180m東南に位置し、1977年の調査（『藤原概報8』）・1981年の調査（『藤原概報12』）で検出した奥山久米寺の寺域南限塀からは、35m離れた位置にあり、「奥山リウゲ遺跡」（『明日香村遺跡調査概報 平成元年度』）と村道をはさんで向かいあう位置にある。大藤原京の条坊呼称では、左

京十二条六坊西北坪にあたる。周辺は、丘陵から広がるなだらかな傾斜が続いており、北東に高く、南西に低い地形となっている。

調査と層序

宅地範囲が水田2筆に及ぶため、調査区は畦を挟んで東区・西区と二つのトレンチを設定した。西区が南北3m、東西13m、東区が南北3m、東西8mで、調査面積は合わせて61m²である。

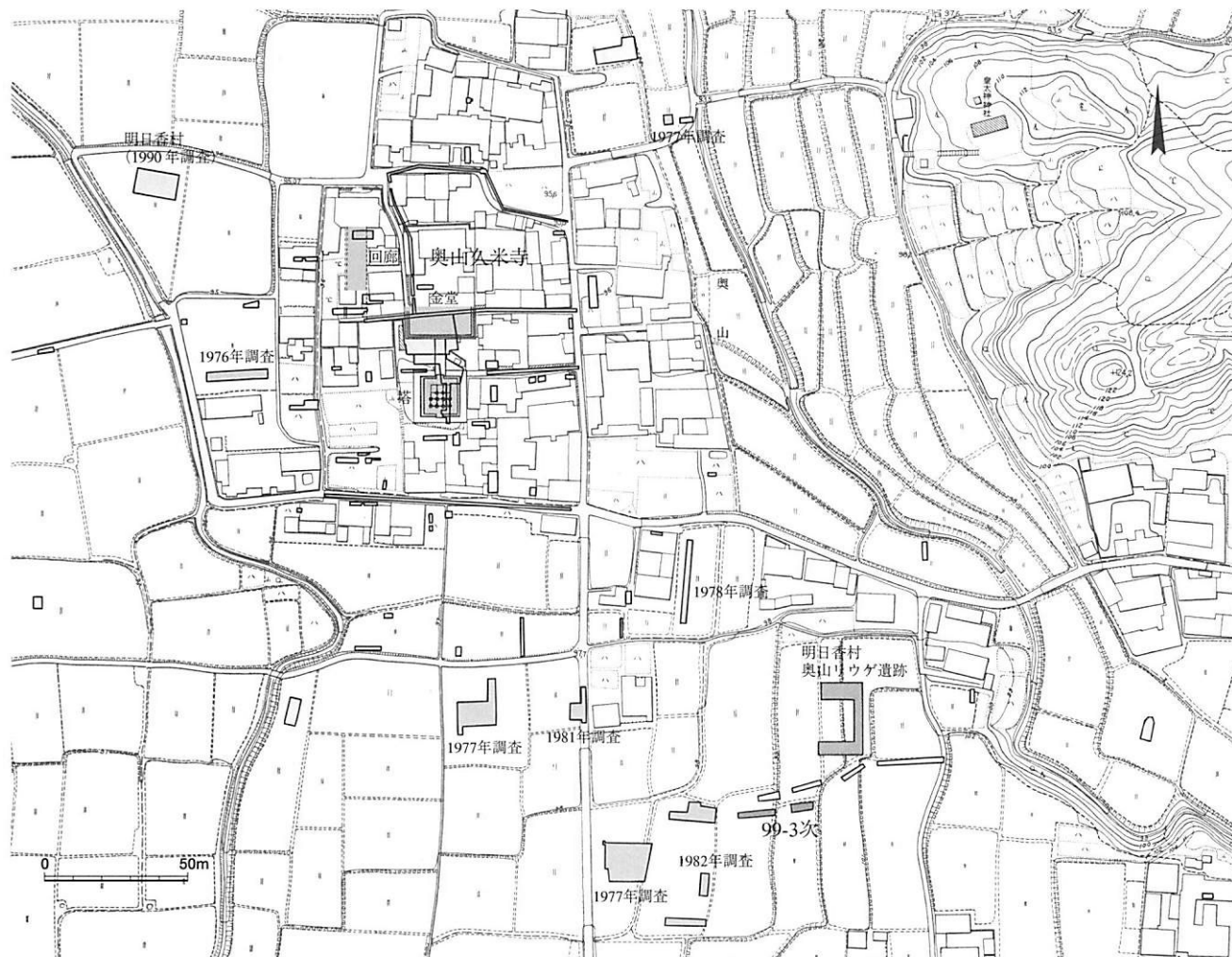


図49 第99-3次調査位置図 1:2500

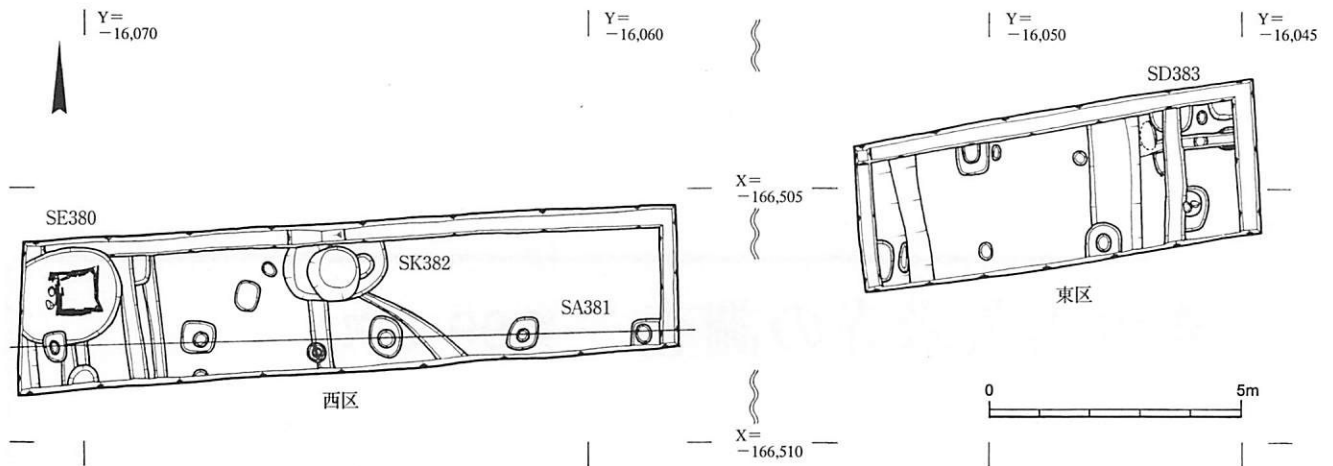


図50 第99-3次調査遺構図 1:150

調査区の基本層序は、上から3時期にわたる耕土、平安時代の整地土である赤土マンガ含灰褐色粘砂層、弥生時代～古墳時代の包含層(河川氾濫層)である黄灰色細砂層・黄褐色粗砂層、黄灰～淡灰色微砂層、地山である青灰色微砂層に分けられる。なお黄灰～淡灰色微砂層と青灰色微砂層の間、地下1.1～1.2mの地点で厚さ10cm程度の火山灰層を検出した。全鉱物組成分析、重鉱物分析、火山ガラス形態分析、火山ガラス屈折率測定等の分析を行った結果、始良丹沢火山灰に同定された(分析は京都フィッシュン・トラックに委託した)。

遺構は、中世の耕作溝は赤土マンガ含灰褐色粘砂層上面で、それ以前の遺構はこれを取り除いた黄灰色細砂層及び黄褐色粗砂層上面で検出した。

検出遺構

検出した遺構には、井戸、掘立柱塀、溝などがある。

SE380 西区の西北隅に位置する縦板方形組の井戸。掘形は、直径約1.8～2.0mの不整円を呈す。井戸枠の上部北側には10～20cm大の川原石が充填されていた。井戸枠

の一辺は0.7m。四隅に多角形に面取りした径12cm、長さ2.0mの隅柱を立て、井戸枠内側に3段にわたって幅5～6cmの横棧を巡らし、上下2段に複数の縦板を並べて側板とする。上端部分では、上の側板が外側に下の側板が内側に重なる。上段側板の現存長は0.4m、厚さ3.0cmで、下段側板は長さ1.8～2.0m、厚さ3.0～3.9cmである。上段側板は一辺に2～4枚、下段側板は一辺に1～2枚の板材を並べている。なお上段側板の端部には、仕口状の切り欠きがあり、転用材とみられる。また北方と東方の下段側板の外側には、板材の合わせ目に沿って横幅約12cmの補強材が存在した。井戸底は、掘形全体に10～20cm大の石が充填されており、井戸枠内下層からは墨書土器をはじめ完形土器がまとまって出土した。出土土器の年代から、奈良時代末～平安時代初期にかけて使用された井戸と考えられる。

SA381 SE380に南接する掘立柱東西塀。4間分検出した。柱掘形の大きさは0.5～0.7m。柱間は2.4m～3.7mと不揃いである。西でわずかに南へ振れる。この遺

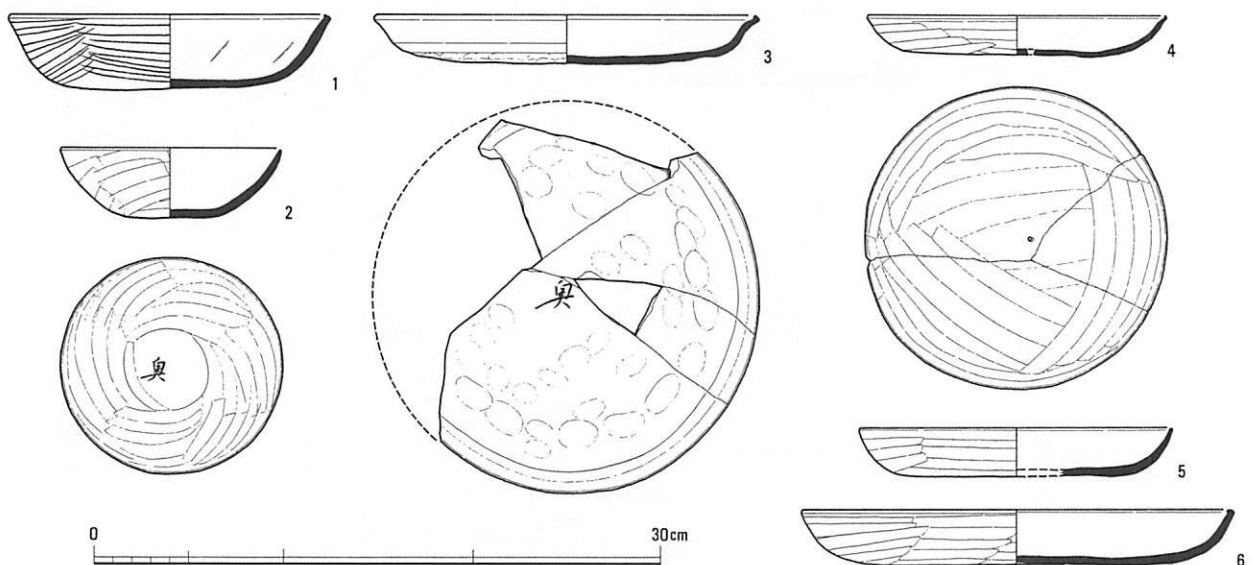


図51 井戸SE380出土土器 1:4 (1～3枠内下層、4枠内、5・6掘形)

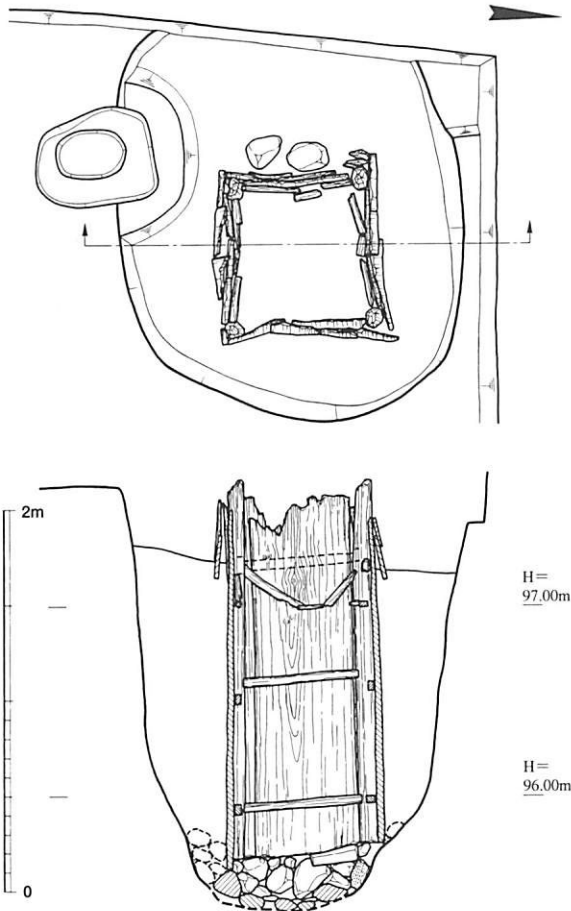


図52 井戸SE380 平・断面図 1:40

構方位は、1982年調査（『藤原概報13』）で検出した奈良時代の掘立柱建物SB190の傾きに近似する。また西端の柱掘形は、SE380の掘形を切っているが、出土土器の年代に差がないことから、両者は同時併存した可能性が高い。

SK382 西区中央で検出した幅約2.0m、深さ0.9mの円形大土坑。土坑北端はトレンチ北壁にかかる。埋土から飛鳥Ⅰの土器が出土している。なお始良丹沢火山灰層は、この土坑を掘り下げた壁面で確認した。

SD383 東区のトレンチ東部で検出した幅0.3m、深さ0.1mの南北溝。埋土からは飛鳥Ⅱの土器が出土した。

この他に東区で柱穴数基を確認したが、まとまった建物や塀にはならなかった。

出土遺物

出土遺物には、土器、瓦、および石製品がある。

瓦 奥山久米寺創建期から奈良時代にかけての丸・平瓦が少量出土した。丸瓦22点2.9kg、平瓦671点8.3kgで、井戸の掘形や井戸枠内を中心に出土。

石製品 赤土マンガン含灰褐色粘砂層から有舌尖頭器の未製品1点、黄灰～淡灰色微砂層から石包丁1点が出土した。

土器 土器は木箱で5箱分出土した。ここではSE380出土土器について述べる。SE380出土土器（図51）は、土師器



図53 井戸SE380 東から

皿A、杯A、椀A、杯C、杯B、鉢、甕、須恵器杯A、杯B、鉢、壺、甕、及び製塩土器からなり、土師器の杯皿類が多いのが特徴である。掘形からは、皿A（5、6）が出土した。二個体とも外面底部から口縁部にかけて削るc₀手法である。枠内からは4の皿Aが出土。口縁部を強く削った後、外面底部から口縁部にかけて削っている（c₀手法）。底部には焼成後、外面から内面に向かって開けた2～4mm大の穿孔がある。枠内下層からは、椀A（2）、杯A（1）、皿A（3）が出土。2は外面体部を削るc₀手法。外面底部中央に「奥」の墨書がある。1は外面底部から口縁部を削った後に、口縁部を磨くc₂手法。3はナデ調整のみ。外面底部は指オサエがみられる。中央に「奥」の墨書がある。2、3の墨書は筆跡が非常に似ており、同一人物の筆によるものであろう。年代は、掘形と枠内下層の土器が奈良時代末に相当し、枠内の土器がやや新しく平安時代初頭に相当する。

「奥」の墨書 今回出土した2点の墨書土器、そこに書かれていた「奥」という字は、何を意味するのであろうか。この地域一帯が「奥山」として文献に登場するのは、鎌倉時代に入ってからである。『興福寺旧蔵文書』弘長2年草本三十三過本作法裏文書の弘長元年（1261）六月十四日付僧印玄請文には「奥山御庄出作百姓弥三郎男」とあり、「奥山庄」という荘園名が登場する。それ以前の文献史料には「奥山」という地名はみえず、古代における当地の地名は明らかでない。今回出土した墨書土器が「奥山」の「奥」を表しているとするれば、SE380枠内下層



図54 第99-3次調査西区全景 西から

出土の土器の年代からみて、「奥山」あるいは「奥」の地名が奈良時代末期まで遡ることになるが、「奥」一文字での断定は危険であり、可能性のひとつにとどめておきたい。

まとめ

今回の調査で明らかになった点を列挙すると、①これまでの調査によって、奥山久米寺南方には奈良時代を中心とする建物群が広く営まれたことが分かっていたが（『藤原概報 8、12、13』）、今回の調査によって、それらが平安時代初期まで存続することが明らかになった。奥山久米寺は、軒瓦の年代観や、寺跡北東で検出した S E 150 から出土した平安時代初期の墨書土器（『藤原概報 8』）が、後に「□□□ [少治田カ] 寺」と判読できる可能性が浮上したことから、平安時代初期まで存続したものと考えられている。今回の調査成果は、奈良時代から平安時代にかけての奥山久米寺一帯の土地利用を知る上で重要な資料となるであろう。

②井戸 S E 380 から出土した 2 点の墨書土器によって、「奥山」あるいは「奥」の地名が、奈良時代末期まで遡る可能性が浮上した。

③奥山リウゲ遺跡では、7世紀後半の建物が検出されているが、本調査でも飛鳥Ⅰ・Ⅱの土器を出土する7世紀前半から中頃の遺構の片鱗を確認できた。奥山久米寺周辺地域における古代の土地利用の実態を究明する上で、今後の調査の進展が待たれるところである。（渡邊淳子）

表 6 その他の発掘調査・立会調査概要

調査回数	遺跡	概要
飛鳥藤原 第99-1次	左京八条四坊 (日向寺)	農小屋の建設に伴う調査。調査区南東隅で近世の流路堆積を、調査区西半で中近世の流路堆積を確認。大官大寺所用軒平瓦が出土。
第99-4次	右京一条一坊	国道165号線拡幅工事に伴う調査。顕著な遺構はなく、地山で始良-T n (AT) 火山灰の二次堆積層を確認。
第99-5次	山田道	立木の移植に伴う立会。移植に伴う掘削が遺物包含層に達しないことを確認。
第99-7次	右京一条一坊	国道165号線拡幅工事に伴う調査。朱雀大路西側溝の想定位置であるが湧水激しく、断面観察によって幅1.5m、深さ0.2mの溝を確認したが、西側溝と断定できず。
第99-8次	右京八条一坊	擁壁工事に伴う調査。中近世の水田の石垣を2条検出。
第99-9次	左京五条三坊	住宅(庫裏)建設に伴う調査。調査区全域が湿地堆積で湧水が激しく、詳細調査を断念。
第99-10次	内裏・朝集殿・内裏東官衙地区	宮内整備に伴う立会。掘削面が遺構面まで及ばないことを確認。
第99-11次	飛鳥寺	史跡の現状変更(公衆便所改築)に伴う調査。既掘削により遺物包含層及び遺構は残存せず。
第99-12次	飛鳥寺寺域東限	住宅建設に伴う調査。中世の沼状堆積層を確認し、南北細溝を多数検出。飛鳥寺創建時から奈良時代までの瓦類が出土。
第99-13次	山田寺	回廊基壇の復原整備に伴う工事立会。工事掘削面が盛土内におさまることを確認。
第99-14次	藤原宮内裏	史跡の現状変更(排水路整備)に伴う調査。盛土下で古墳時代の遺物包含層を確認。顕著な遺構は見られない。
第102次	藤原宮西北官衙地区	公民館建設に伴う調査。7世紀後半から藤原宮期に至る3時期の建物群と、古墳時代初頭の流路等を検出。調査成果は『橿原市埋蔵文化財発掘調査概報 平成11年度』として刊行。